

月例研究会（2008年3月26日）

鈴木茂三郎文庫整理の現状

——目録作成に向けての作業報告

松尾 純子

鈴木茂三郎文庫については『大原社会問題研究所雑誌』（以下『雑誌』）494・495合併号（2000年1・2月）に概要紹介がある（吉田健二執筆）。日本社会党の委員長も務めた鈴木茂三郎氏は、自らが関わった政党の資料や社会運動資料を収集し、さらに日本の社会思想・社会主義関係文献を多数収集し、その一部を社会文庫として日本近代文学館に寄贈した。1970年の茂三郎氏死去後、子息の鈴木徹三氏（法政大学名誉教授・大原社会問題研究所名誉研究員）が、残りの資料の多くを大原社会問題研究所に長期間寄贈し続けた。徹三氏については早川征一郎「鈴木徹三先生のご逝去を悼む」『雑誌』525号（2002年8月）に詳しい。

寄贈は1976年から2006年まで30年以上にわたり40回以上に及んだ。2002年の徹三氏死去後は遺族によって最終的な寄贈がなされた。1997年以降、主として松尾純子と古谷郁子とが整理を担当してきた。来年度末の目録作成に向けて、これまでの整理方針と今後の作業課題をまとめて報告した。

形態的には、和書（1,803件）、洋書（未整理）、資料（後述）に3分割した。和書に関しては一律受け入れではないため、研究所ですでに所蔵しているか否か、書き込み等の有無など選別作業を進めてきた。今後はさらに所蔵の必要性の観点からも選別を進めることになる。

資料としたもののうちには、新聞・雑誌等の定期刊行物も含まれる。印刷物、原稿・メモ類、

書簡、写真、およびそれらの複写物のほか、新聞切り抜き、音声・映像資料、色紙・額・印鑑などの所謂現物資料がある。文庫中の資料は、『橋浦時雄日記』コピー資料については、『雑誌』510号（2001年5月）の研究所だよりに、音声資料についてはその内容やデジタル化の進行などが、吉田健二「大原社会問題研究所のオーラル・ヒストリー」『雑誌』585号（2007年8月）に、それぞれ紹介された。全資料についてデータ入力・仮資料番号付与・保存処理が一応終了し、すでに一部研究に供されている。内容的には茂三郎氏収集の社会党本部資料、茂三郎氏の個人的資料、伊藤好道氏からの寄贈資料、徹三氏収集の社会党・茂三郎研究資料が目立つ。なお2005年に受贈した宮野稜生氏資料も本文庫に加えた。

資料整理方針としては、原秩序維持・一件入力・年代別整序を原則としてきた。2007年3月現在で資料総数は14,868件にのぼった。このうち何らかのファイル名のない資料が2,893件（約20%）ある。ファイル数は691件であり、今後はこのファイル名を核に資料内容の傾向などを分析・整序していく予定。年代については積極的に推定を行ってきたが、それでも2,066件（約14%）がなお不明である。定期刊行物については所蔵物との照合を行い、号外を多く含む267件の欠号が補充できる見通しである。

現状では、閲覧に支障はないものの、配架状況もデータ上もほとんど整序されていない。今後、年代・内容等の項目を立てて整序するか否か、整序する際の方針決定が、本格的公開にあたっての課題となる。この課題を解決し、文庫の内容理解を進めるためには、研究会活動が必須である。是非とも研究員諸氏のご助力を仰ぎたい。

（まつお・じゅんこ 法政大学大原社会問題研究所
兼任研究員）